

# 「当たり前」って何？

岐阜市立長森南中学校 3年

船渡 莉音

皆さんは何気なく過ぎていく日々について真剣に考えることはありますか。身近な人との関係が明日も当然続くものだと思ってい  
ませんか。「当たり前」の日々が明日も、明後日も、当然のように続いていくと私は思っていました。ですが私は小学5年生の時に  
起きた2つの出来事を通じて、この考え方が大きく変わりました。

1つ目の出来事は、5歳上の姉が遭った突然の交通事故です。いつも何事にも一生懸命な姉が、一瞬で意識不明の重体となり  
ました。3日ほどで姉の意識は回復し、入院することになりました。しかし、コロナ禍の真っ只中ということがあり、姉との面会は制限  
されていました。ただ、母だけ少し入ることができました。私は母と電話を繋ぎ車の中で父ともう1人の姉と画面越しにしか姉の状況  
を知ることができませんでした。画面の中に映る姉は、髪の毛が一部剃られていて、どこか遠くの方を眺めてボーッとしていました。  
忙しい姉と家で顔を合わせない日々慣れきっていたせいも、姉が家にいなくても私は現実のこととして感じることはできずして  
した。

2つ目の出来事は、3歳の頃から通い続けている習い事での大きな変化でした。そこは私の原点のようなところでもあり、厳しく指  
導してくださっていた先生は特別な存在でした。ところが、その先生が辞められることになったのです。それをきっかけに、私が通って  
いたクラスでは10人以上いた仲間が、次々と去っていき最終的には私1人になってしまいました。それから、新しい先生に指導して  
いただくことになりました。でも、指導の仕方や雰囲気が変わってしまいました。

これらの経験をして、この時から私は深く考えるようになりました。事故が起こるまで、そして習い事環境が変わるまで、私は「毎  
週同じ時間に、同じところへ行き、同じように思うこと」が当たり前だと感じていました。けれど、日々は決して同じことの繰り返しでは  
なく、1日も同じ日は存在しません。もしかしたら、次の一瞬で「当たり前」ではなくなってしまうかもしれません。このことは、人間関  
係においても重要だと私は考えています。私たちは友人や家族など、関わる人に対して毎日同じ感情を持っているのが「当たり前」  
とは限りません。そして、明日「当たり前」のようにまた会えるとも限りません。喧嘩をしても「明日謝ればいい」、感謝の気持ちも「今  
言わなくてもいつか言えればいい」と言葉を後回しにしています。もし、毎日「一生に1度の瞬間」ということを心からわかっていたら  
私たちはもっと一言一言を大切にできるはずで。皆さんは、今まで出会ってきた人とはどんな別れを経験してきましたか。進学や  
卒業といった人生の節目の別れもあれば、思いがけない突然の別れ、もしくは感情のぶつかり合いによる喧嘩別れもあるかもしれ  
ません。その記憶の中に後悔している別れがきっとあると思います。「あの時あんなことを言わなければよかった。」逆に「言っておけ  
ばよかった。」などそんな後回しになった思いは時間が経つたびに後悔が増していきます。その空気感も一緒に伝えきれないと、増し  
た後悔は消し去ることができないと思います。私は今、自分の周りにいてくださる大切な方々には、その瞬間に感じた感謝や思いを  
そのまま素直に伝えたいと思っています。私にとって「当たり前」という言葉は、その日に自分が作り込んで未来も同じだと信じたい  
という、思い込みの考えだと思います。今後自分や相手との後悔や気持ちのすれ違いが起きないためにも、今、言葉にして伝える。  
照れくささなどを捨てて、思いを形にする。それが、変化し続ける日々の中で私が考えた私の答えです。今日隣にいてくれる人にまっ  
すぐ想いを伝えましたか。皆さんも、今が「一生に1度の瞬間」ということを心から理解したとき、誰に、どのような言葉を届けたいで  
すか。